

## 平成 29 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名 和文：惑星物質科学のフロンティア

英文：Frontier of the planetary material science

研究代表者 日本原子力研究開発機構：主任研究員・大澤崇人

参加研究者

学習院大学：助教・村上登志男

北海道大学：准教授・橘省吾、助教・馬上謙一

山形大学：教授・櫻井敬久、准教授・岩田尚能

国立極地研究所：助教・今栄直也、准教授・山口亮

東京海洋大学：教授・大橋英雄

東北大学：教授・大谷栄治・中村智樹

東京大学：准教授・三河内岳、特任研究員・吉田敬

九州大学：助教・岡崎隆司

茨城大学：教授・木村眞

大阪大学：教授・寺田健太郎、教授・佐々木晶、助教・橋爪光、助教・藪田ひかる、特任研究員・

柴田裕実

大阪産業大学：准教授・茅原弘毅

京都大学：教授・土山明、准教授・伊藤正一

宇宙航空研究開発機構：助教・矢野創、開発員・矢田達、上相真之

産総研：研究員・中村良介

筑波大学：准教授・丸岡照幸

首都大学東京：教授・海老原充

熊本大学：准教授・尾上哲治

東京大学宇宙線研究所：教授・瀧田正人

研究成果概要

本活動は、平成 14 年度より継続する「地球外固体微粒子に関する総合研究」の拡張版であり、「地球外起源固体微粒子」に関する包括的・分野横断的な議論を行うことを目的としており、年度末に 1 泊 2 日の研究会を開催し、時間に制約を設けず、分野を超えた自由闊達な議論を行ってきた。本年の研究会でも異分野間の多岐にわたる報告が行われた。2 日間で 11 件の講演を行い、発表時間に拘束されることなく自由闊達な議論を行った。また引き続き研究会の様子をビデオカメラで記録した。発表内容は近く HP にて公開予定である。

開催場所：東京大学宇宙線研究所（柏キャンパス） 6 階大会議室

平成 29 年 3 月 29 日(木)

13:30-14:10 上相真之(JASRI)

はやぶさ 2 帰還試料分析に向けた、多機関連携分析手法開発の現状

14:10-14:50 白井直樹(首都大)

インパクトガラス中の親鉄元素による隕石成分の探索

15:00-15:40 前田凌雅(首都大)

希土類元素及びトリウム、ウランの分布に基づく R コンドライト母天体での変成作用の考察

15:40-16:20 早川岳人(量子科学技術研究開発機構)

137La 宇宙核時計の可能性

16:20-17:00 諸本成海, 寺田健太郎(阪大)

ルナ 2 4 号試料の U-Pb 年代

17:00-17:40 埜崇志(宇宙線研)

ハドロン反応と宇宙線観測

平成 29 年 3 月 30 日(金)

9:00- 9:40 尾上哲治(熊大), 高畑直人, 三浦光隆, 佐藤峰南, 石川晃, 佐野有司, 磯崎行雄

ヘリウム同位体を用いたペルム紀/三疊紀境界における地球外物質フラックスの推定

9:40-10:20 大澤崇人(原子力機構)

昇温脱離ガス分析法(TDS)でみた隕石

10:20-11:00 海老原充(首都大院理工)、関本俊(京大原子炉)

炭素質コンドライト隕石中の塩素、臭素、ヨウ素含有量

11:10-11:50 馬上謙一(北大):

Allende Ca, Al rich inclusion に保持されていた宇宙線照射起源 Na-22 について

11:50-12:30 吉田敬(東大)

超新星起源プレソーラーグレインのケイ素同位体比と大質量星の C/He 層における Si 合成の可能性

整理番号 H03